

協働事業評価書

事業名「子育て家族孤立防止活動（ホームスタート）」

事業主体：NPO 法人子育てネットワーク

担当課：こども福祉課

評価者：協働推進懇話会（委員8名）

評価：◎他のモデルとなりうる ○適当である △工夫が必要

評価項目	評価【◎○△】	評価内容	評価【◎○△】	コメント
①事業の評価	◎ 4人 ○ 4人 △ 0人	事業スケジュール	◎ 3人 ○ 5人 △ 0人	<ul style="list-style-type: none"> ■転入者が多く、子育て世代の多い和光市に合致している事業で、孤立化した家庭を守る活動として素晴らしい。 ■アウトプットの指標は簡潔で分かりやすいが、本来必要なアウトカムの指標、例えば虐待件数に変化があったのか、児童相談所への通報件数はどうだったのか、ということがこの報告内容だけでは分からないので、事業の成果が見えて来ない。アウトカムの部分で成果指標をうまく取り上げられれば、この事業の実施内容の充実ぶり、協働としての意味合いを伝えられるのではないかと。 ■元々団体が独自で活動して来たものだったが、今年度行政提案として協働事業となったのは評価できる。しかし、オーガナイザーの件費や研修費に多くの予算が費やされていることは、継続性の点から考えると不安がある。 ■年間を通し、ホームビジター養成からフォローアップまでの計画が達成されている。子育て支援の仕組みづくりのモデルになり、子どもを持った母親が安心して暮らせる和光の土台作りをしてきているように感じる。 ■当初の予定件数よりも利用家庭数が上回り、事業を必要とする母親が増えていることを痛感した。また、ビジターが地域の担い手としての育成者となったことについて、意識の高い市民をもっと様々な活動に繋げることができたらと社協の立場から感じた。 ■利用家庭数やホームビジター養成数など当初予定を上回る実績をあげており、また、質的にも外国籍家庭の利用や対応困難ケースを行政につなぐといった実績もあり、市民ニーズに応える公共サービスになっているといえる。 ■おおむね予定通りに事業が進行したと評価する。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■こども福祉課と協働しているのであれば、ファミリーサポートセンター、子育て支援センター、家庭児童相談員等と協力して事業を進めていくことで、市と協働した意味合いが深くなっていくと感じる。 ■市民周知が足りていない部分を感じるので、市と協働して事業の周知をすることが必要。
		事業成果	◎ 4人 ○ 3人 △ 1人	
②協働の評価	◎ 2人 ○ 4人 △ 2人	プロセスの積み重ね	◎ 2人 ○ 6人 △ 0人	<ul style="list-style-type: none"> ■保健センター、コープみらい等と連携が深まり事業の広がりが感じられる。 ■実施している事業内容は、協働の形態のひとつとして、一定の成果を出せる良い内容だと思う。 ■事業内容から見ると、自治会や和光市民生児童委員協議会等地域での見守り活動をしている団体との連携が必要であると思うが、市民団体への周知ができたか疑問である。 ■報告を聞いて、市が一步下がって事業を実施しているように見受けられた。 ■様々な関係機関との連携、様々な場所への積極的な地域への足運びが事業の評価につながっているように感じる。市民満足度の向上という面で、利用者の自己評価の改善率がとても高く、運営主体側や訪問するホームビジターの懸命な対応が実を結んでいるように感じる。 ■協働の基本原則では、担当課以外に市民活動推進課がコーディネートに入ったことがとても興味深く、市と一体となって事業を推進している様子が伺えた。 ■平成27年度より子ども子育て新制度の和光市独自事業と位置づけられる方向ということは、モデル的な成果をあげているといえる。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■利用者満足度の評価手法をさらに磨くとともに、ホームビジターの担い手が幅広く市民各層に広がっていくことを期待する。 ■民生委員や自治会等との協力関係を深め、ホームスタートが広く知られるようになることを期待する。
		事業の広がり	◎ 1人 ○ 6人 △ 1人	
		市民満足度の向上	◎ 1人 ○ 5人 △ 2人	
		協働基本原則	◎ 2人 ○ 4人 △ 2人	
		協働の成果	◎ 2人 ○ 3人 △ 3人	
③総合評価 上記①、②以外のコメント (団体や市へのアドバイスを含めて)				<ul style="list-style-type: none"> ■担当課は市の担当者として、協働事業は通常の事業委託や補助金支出ではない、という理解が必要だと感じる。 ■このような事業がひとつのきっかけとして、和光市が「子育てしやすいまち」として、市内外に広まることを期待する。 ■子育て中の母親にとって、とても心強い事業で、地域の隙間にある孤立した家庭への支援等に力を入れてきた結果、市の中で新制度に位置づけられるまでになったことは、事業主体側の努力の賜物だと思う。 ■報告では、平成26年度も事業を継続しているという点が分かりづらかった。大事な成果だと思うので、分かりやすいPRを心がけて欲しい。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■事業の継続について、市の継続的な支援が必要だと感じる。 ■「協働事業提案制度」のメリットを活かした事業展開を期待する。 ■家庭への支援と共に、家庭から出てくる色々なニーズをNPOだけではなく、地域で共有できるような情報交換や地域づくりが今後必要だと感じる。